

平成 29 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
 (平成 28 年度の実績評価)

作成日 平成 29 年 7 月 19 日
 更新日 平成 30 年 3 月 26 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	教育委員会 文化財課
	施策No.	20	施策名	歴史・伝統文化の振興	施策主管課長名	森本 浩人
施策関連課名			生涯学習課			

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市民 市内の指定・登録文化財、埋蔵文化財、その他の文化財 対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	市民が、ふるさとの歴史を知り、誇りに思い、市内の歴史的資源を、新たな地域文化創造の糧としてもらえるようになる。 市民共有の財産である市内の歴史的資源を、良好な形で次代へ伝える。 意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
① 対象指標	ア 市人口	人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038	
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018				
	イ 指定・登録文化財、埋蔵文化財	件	見込み値		633	633	633	633	633	633	
			実績値		633	633	636				
	ウ		見込み値								
			実績値								
② まちづくり指標	A 市内の文化財や伝統芸能の保護や活用に関する満足度	%	目標値		未設定	34.4	34.8	35.2	35.6	36.0	
			実績値	34.0	35.9	33.2	38.8				
	B 市内の歴史的資源を、守り伝えたいと回答した市民の割合	%	目標値		未設定	80.4	80.8	81.2	81.6	82.0	
			実績値	79.8	83.9	79.2	79.5				
	C 指定文化財等がき損・破壊・盗難等がなく、適切に維持された件数	件	目標値		633	633	633	633	633	633	
			実績値	633	633	633	633				
	D		目標値								
			実績値								
	E		目標値								
			実績値								
	まちづくり指標設定の考え方		A: 文化財の保護に関する市民の評価を示す。 【市民アンケートの『文化財や伝統芸能の保護や継承活動について、満足していますか』において、「満足している」「やや満足している」と回答した人の割合】 B: 歴史的・文化的資産への市民の関心を示す。 【市民アンケートの『市の文化財や伝統文化を地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと思いますか』において、「思う」「まあまあ思う」と回答した人の割合】 C: 文化財等の保存に関する成果を示す。 【市内に所在する指定文化財及び埋蔵文化財の件数】 ※平成								
	目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)		A: 現況値から5年間で約2%の増加を見込み設定 B: 地域の文化財についての周知活動を推進し5年間で約2%の増加を見込み設定 C: 指定文化財等の全てが適切に維持されていることを目標値とする								

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	23	24	25	25	24		
関連事業予算額(単位:千円)	40,969	51,674	54,238	46,255	61,620		
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	0	0	
	県支出金	10,084	14,617	11,907	9,641	9,155	
	地方債	0	0	0	0	8,000	
	その他	17,527	19,116	19,767	20,519	23,779	
	一般財源	13,358	17,941	22,564	16,095	20,686	

4 評価結果(施策の有効性評価)

<p>① 目標達成度評価(目標値と実績値との比較)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>※左記の理由</p> <p>市民満足度、意識ともに昨年度から向上している。地域文化発信の拠点としての重要文化財安藤家住宅や、ふるさと文化伝承館の入館者数、利用者数も堅調に推移しており、広報誌等による継続的な情報発信や、本年度から本格実施しているふるさと〇〇博物館(フィールドミュージアム)推進事業のイベントやワークショップ等の実施により市民への周知が高まったことが考えられる。なお、本市文化財行政の個性のひとつである「ふるさと教育」に資する教育普及事業数も高い活動量を維持している。また、資産である指定文化財等の基礎数については、平成28年度に新たな登録があり3件が増加した。一方、報道されたように公文書を偽造するなどした業者により埋蔵文化財2件が毀損した。行政側の対応は適切にとられており、不可抗力的要素もあるが、事案を分析し県とも連携して埋蔵文化財の保全に万全を期したい。</p>
<p>② 時系列比較(過去3ヶ年程度の比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>※左記の理由</p> <p>市民アンケート結果を見れば、平成26年度の実績値が全体的に好調で、経年で見れば上昇基調にあるとは必ずしも言いがたい。27年度以降の上昇傾向の固定化を図る必要がある。ただし、市の歴史的・文化的資産の継続的調査と顕在化の結果、平成28年度には、新たに3件の国登録有形文化財が生まれている。</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>平成28年度に、文化財課が実施した、講座等教育普及事業の総数は250件。のべ参加人数は13,720人であった。この内159件は市内小中学校学生を対象とした事業で、これらの実績値は全国的にもトップクラスの水準を保っている。一方で、市民アンケートの結果は、これに見合う顕著なものであるとは必ずしもいえないが、文化財行政の実施事業は、市民の意識への働きかけであり、今後とも息長く継続的に事業展開を行うことが求められる。</p>
<p>④ 住民の期待する成果水準との比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>講座や学校での授業、広報誌での周知、親しみやすいマップやガイドブックの刊行、「文化財Mなび」の運用、さらには「子宝の女神ラヴィ」などを通じ、市民にわかりやすい形で地域の歴史や文化を周知し、それらが市の個性であり、ふるさと意識の源泉であり、個性的なまちづくりに欠かせない要素であることを市民に知ってもらうよう努め、市民アンケートの結果も上昇基調にある一方、施策への市民の満足の中で、どちらともいえないと回答した割合(=関心の薄い層)は継続的に全体の50%を越えており、自ら主体的に活動した市民の割合も5%代で推移している。このことから、市民の関心はまだ低く、更なる潜在的ニーズ掘り起こしが必要であり、今後とも活動量の維持、向上、効率化が求められる。</p>

5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
<p>市域の多様な歴史的、文化的資産に気づき、これらを自らの資産として保護し、また史跡探索や伝統芸能の体験活動を行うなど、その資源を積極的に活用しようとする市民の数が少なく、関心も高くない。</p>	<p>更なる市民参加機会の促進と、市民と協働による地域の歴史的・文化的資産の更なる掘り起こしを市域各地域で実施していく。これにより、自らの周囲に地域の個性であり、ふるさと意識の源泉であり、更には様々なかたちで活用可能な、これら資産が数多くあること、それへの「気付きの促進」を図るとともに、顕在化したこれら資産やその情報を市民が気軽に得ることができる「しくみ」づくりを展開する。</p> <p>また、教育普及事業をはじめとする、これまで継続的に実施した様々な事業を見つめ直し、事業の効率化や更なる効果向上を図る。</p>	<p>平成29年度から本格的に事業実施している「ふるさと〇〇博物館(フィールドミュージアム)推進事業」を推進する。その過程で、市民参加型のワークショップや、「まち歩き(=フィールドワーク)」等を展開し、地域の人々が自らの地域に眠る、歴史的・文化的資産の存在と価値に気付いてもらうように努める。また、市の歴史的個性の象徴である国指定史跡「御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)」を、より良い形で市内外にわかり易くアピールすることができるよう整備するための基本方針を策定する。</p> <p>さらには、市民が気軽に文化財情報や歴史的・文化的資産にアクセスすることができるように、公開可能な形で新たなアーカイブを大学等との協働研究に構築する。</p> <p>これに加え、更なる成果向上が見込めるよう、既存事業の更なる効率化、効果向上に向けての各事業の選択と集中、既存事業の磨き上げを行う。</p>